

指導班だより



R元.10.8 No4
宮城県大河原教育事務所 指導班

今回は、9月12日（木）に訪問した角田市立桜小学校3学年国語の授業を紹介いたします。「確かな読みの力を高める学習指導の在り方」という研究主題のもと説明文を取り上げて【視点1】正確に読み取るための書く活動の取り入れ方の工夫【視点2】読み取ったことを自分の言葉でまとめ、表現し合う指導の工夫の2つの視点で実践を進めています。書き手の工夫を考えながら二つの文章を読み比べて、どちらを選ぶか自分の考えを書くという目標に向けて、児童が意欲的に学習に取り組んだ事例です。

角田市立桜小学校 3年 国語 「ほけんだより」を読み比べよう。

事例のポイント→どちらの文章がよいか理由を明確にして書き、書き手の工夫に気付かせ、読みをさらに深める。

- ①「書き込みノート」を活用し、理由の手がかりにする。
- ②選んだ理由をグループから全体での交流へ広げる。

- 授業を支えるもの
- 日常的な音読・読書の指導
 - 5つの提言の自校化
 - 学習ルールの徹底

<本時の指導案概要・板書計画 本時6 / 8 >

<目標>どちらの「ほけんだより」を選ぶのかを決め、その理由とともに書くことができる。

<授業の実際・児童の様子>

段階 時間	・活動内容 ◎主な発問・指示	○子どもの反応例	・留意点 ◎手立て ※評価 □5つの提言
導入 (6)	1 本時のめあてを確認する。 ◎どちらのおたよりにするか、えらんだ理由をまとめよう	・前時までに書き込みノートには、取り上げている事柄と説明の仕方の共通点・相違点を線を引いておく。 ○Aのおたよりは、朝ごはんを食べると元気になるよって書いてあったね。 ○Bのおたよりは、朝ごはんを食べないと具合が悪くなると書いてあるから、反省しようという気持ちになったよね。	・課題を全員で読む ・前時の学習内容（掲示や書き込みノート）を確認し、本時のめあてにつなげていく。[3]
	2 なぜそのおたよりを選んだのか理由を明確にして書く（個人） ・選んだ理由や考えを書く。 ◎自分だったらどちらの「ほけんだより」をえらびますか。理由も付けて書きましよう。	○(A(メリット)作戦) ・Aは、朝ごはんを食べると元気になることが書いてあるから、朝ごはんを食べようと思う人が多くなると思う。 ・朝ごはんの効果イラストで説明しているから分かりやすい。 ○(B(デメリット)作戦) ・Bは、朝ごはんを食べないと具合が悪くなると書いてあるから、朝ごはんを食べようという気持ちになる。 ・Bは、朝ごはんを食べなかった人と保健室に行く人の人数を調べて表にしているから説得力がある。	※書き手の表現の意図から、読み手の受け止め方を考えている。(発言・ワークシート) [B(1)ウ] ・選んだ理由を書かせる。[4] ◎理由を書く時の参考となるよう今まで学習してきたことと提示し、自分の書き込みノートに記入していることを参考にさせる。 ◎モデルとなる型を黒板に提示し、理由を書く際の支援とする。 ・机間指導で考えが書けている児童を認める。[2] ◎理由が書けずに困っている児童には、おたよりに選んだ人がどんなことを考えるのか、どんな気持ちになるのかを聞きながら引き出していく。[1]
展開 (30)			

<導入>本時のめあてを確認する。
*前時までの学習の積み上げを、子供たちの書き込みノートを基に簡単に確認し、本時のゴールを明確に意識させることにつなげていました。

<展開1>なぜそのおたよりを選んだのか理由を明確にして書く。
*マニュアル化したものではなく、理由の書き方として、「結論（どちらを選んだか）」と「理由（複数ある場合は、順序を表す言葉を使って）」を、簡単な形で提示したことにより、子供たちはまとめやすくなりました。
*書き込みノートから、吟味された内容や書き手の説明の仕方の工夫などを取り出しながら、自力で理由を書きまとめていました。
<展開2>選んだ理由をグループで交流する。
*自分なりの選択の理由について交流していました。一人一人の着眼点や感じ方に違いがあることに気付かせるためには、同じ選択でも異なる理由だったり、違う選択だったり比べて聞き、整理しながら考えるための視点を、アナウンスしていくとよいですね。

<p>3 選んだ理由をグループで交流する。</p> <p>◎自分がどちらを選んだのか、理由も付けて友達と話し合いました。</p>	<p>◎私はAを選びました。「こんないいことがあるよ」と書いてあった方が朝ごはんを食べようと思うからです。</p> <p>◎Aの図は、朝ごはんがどのように役立つのかが分かりやすいと思います。</p> <p>◎私はBを選びました。Bは、朝ごはんを食べないと具合が悪くなると書いてあるから、反省しようと思うからです。</p> <p>◎Bの表は調べた人数を書いていて、信じられる。</p> <p>◎学校の人を調べているから、自分にも関係があると思う。</p> <p>◎Aを選んでいたら、○○さんの考えを聞いたら、Bもいいなと思ったよ。</p> <p>◎図や表を使っているし、どちらのおたよりもいいな。</p>	<p>※二つの文章のうち、効果があると思うほうを選び、書かれている事柄や説明の仕方に関連付けて、その理由を明確に書いている。(ワークシート) 【C(1)イ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流するときは、自分がどちらを選んだのか理由を添えて話すように伝える。 友達の意見に納得したときには、メモを取るように伝える。 自分の選んだおたよりの良さを様々な理由を通して再確認させ、読みを深めることができるようにする。 異なったおたよりを選んだ友達と交流することを通して、一人一人の着眼点や感じ方に違いがあることに気付かせる。 <p>◎発表した児童の理由を聞いて参考にさせる。</p>
<p>4 選んだ理由について、全体で交流する。</p> <p>◎どちらを選んだか理由を発表してもらいます。自分の意見と比べながら聞きましょう。</p>	<p>◎同じおたよりを選んでいるのに理由が違うな。</p> <p>◎友達のおたよりの理由も納得できるな。</p>	
<p>5 本時の学習をまとめる。</p> <p>◎えらんだ理由は、書き手の工夫とつながっている</p>		
<p>終末 (10)</p> <p>6 本時の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りをノートに書く ◎本時の学習で、分かったことや感想を書きましょう。 	<p>◎書き手の工夫によって、誰々の考えることや気持ちは変わる。</p> <p>◎どちらでも大森先生の伝えたいことは伝わっている。</p>	<p>ワークシートに学習の振り返りを書かせる。【2】、【4】</p>



〈展開3〉選んだ理由について全体で交流する。

*一人一人の子供への温かな言葉がけと励ましを含めた見取りのもと、子供たちは最後まで真剣に学習に取り組んでいました。

*「いいことあるよ作戦」「悪いことあるよ作戦」などの名前付け、「イラストがあって、1年生でも分かる」「正確な数値が説得力をもつ」など、自分が選択した情報の解釈をもとに、書きぶり、内容の効果、読み手への伝わりやすさ等、改めて特長(観点)に気付かせるまとめが行われました。

〈板書のポイント〉

*子供たちが書きまとめた書き込みノートと合わせた板書で、見通しを持って取り組んだり、学びの足跡を確認したりすることにも有効でした。



「ほけんだより」を読みくらべよう

◎どちらのおたよりにするか、えらんだ理由をまとめよう

つたえたいこと 朝食をしっかり食べてほしい

<p>Bのおたより</p> <p>【取り上げていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食べないと元気がなくなる。 朝ごはんを食べなかった人がほけん座にたくさん行っている。 食べる時間がないという理由で食べない人が多い。 <p>【説明の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 表:自分で調べたこと 数字:本当の数 アドバイス:やってみようと思う。 <p>【えらんだ理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> Bは、朝ごはんを食べないと具合が悪くなると書いてあるから、反省しようと思う。 実さいに調べた人数を書いていて、信じられる。 学校の人を調べているから、自分にも関係がある。 	<p>Aのおたより</p> <p>【取り上げていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気に生活するために大切なもの。 朝ごはんはエネルギー。 食べる体温が上がる。 ⇒午前中を元気にすごせる。 <p>【説明の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵・やじるし:分かりやすい アドバイス:やってみようと思う。 <p>【えらんだ理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> Aは、朝ごはんを食べると元気になることが書いてあるから、朝ごはんを食べようと思う人が多くなると思う。 どのように役立つのか図を見ると分かりやすい。
---	--

◎えらんだ理由は、書き手の工夫とつながっている

【本単元「ほけんだより」を読みくらべよう】の指導のポイント

*「書き手の工夫を考えながら二つの文章を読み比べて、どちらを選ぶか自分の考えを書いて紹介し合う」という目標を設定し、そのための材料を集めながら詳しく読み進めていこうという、単元全体を見通し、児童が目的意識を持って学習に取り組める単元構想が有効でした。また、二つの文章を同時に比べて読み進めていくために、校内研究と関連させた「書き込みノート」を活用し、単元のゴールとともに単位時間のゴールも意識させ、学んだことの振り返りを可能にしています。

*2年生の「ふろしきは、どんなぬの」、4年生の「広告と説明書を読みくらべよう」、5年生の「新聞記事を読みくらべよう」、6年生の「新聞の投書を読みくらべよう」にも活かせる実践です。